

安全対策ヒヤリハット

ヒヤリハット「ハインリッヒの法則」“1:29:300”1件の重大事故の裏に、29件の軽傷事故、300件の無傷事故(ヒヤリハット)があるとされています。{分析により導かれた労働災害の発生比率}現場でヒヤリで済んだことを思い出し、災害に繋がらないようにするためには、基礎からの積み上げが大切になっていきます。

原因と対策を話し合い、現場に活かすことの大切さ、技術と知識を身に付けることの大事さとその他に、安全対策に必要な項目をまとめましたので、ご紹介します。

- 若手・新人育成
- 道具の充実化
- 熱中症対策・寒さ対策の注意
- 作業計画の徹底
- 緊急連絡先の把握
- 重機・機械のメンテナンス
- 最新技術研修会の参加
- 無理の無い作業時間と休暇
- 食事による栄養バランス
- 職場の雰囲気作り

これらを1つ1つ積み上げて行うことで、「安全性と技術」が高まり、労働災害防止に繋げることが出来ます。人を中心に考えた取り組みをしていくことが、企業と人材と一緒に成長していける1番大切な安全対策になることでしょう。

環境と共存する意義とは

今環境問題が世界で取り上げられ、「SDGs」の目標としても掲げられるようになっていきます。では、その環境と共存しているのは人であることは紛れもない事実です。その環境を良くするのも悪くするのも人なんです。環境と共存するためには、まずは“知る”ことです。今日本はどんな状況で、環境問題にはどんなことが起こっているのか、一人一人に出来ることは何なのかを知る。無神経でいられても、無関係ではられません。

林業という仕事がどれだけ環境問題に共存していけるのかが、これからの未来を切り開く鍵になると思います。そのためには、今直面している経済活動の停滞、事業継続の危機、少子化や高齢化、人材不足が大きな問題になっています。そこで注目され始めたのが、「スマート林業」林業をIT化することで、人材不足の問題解決へと導いていきます。勿論機械では出来ないところもあります。作業も上手く機械と人の手と共存しあい、持続可能な林業へと変化させていかなければなりません。機械やデジタル化だけに頼るばかりではなく、作業をしている人にも光が当たり、林業の大切さを伝えていき、林業の担い手を確保していくことこそが、共存する意義になるのかもしれない。

スマート林業へ繋がる新機器の紹介

依田林業新聞

発行所

(有) 依田林業
塩山事務所
総務部

心に響く一言
幸せだから前向きになれるのではない
前向きになるから幸せになれるのだ

苗木植栽機
第一合成株式会社



腰を曲げずに穴掘り、苗木の植栽が自動可能「苗木植栽機」



コンパクトで狭い場所にも侵入可能な高所作業車「KX-28」最大高28m



最大積載量40kg運搬用ドローン「EAGLE40」国内初3オペ操縦切替機能により長距離でも安定飛行可能